

## La Vida de Santo Domingo de Silos I

Translated by Tsuyomasa Ota

### Abstract

Berceo's this work is the longest of his Lives of saints written during the Visigothic epoch. The source is Grimald's Latin prose work, *Vita Sancti Dominci* and it is supposed that one of the purposes of this writing is the propaganda of this monastery at the behest of the monks residing there to attract more donations and pilgrims.

This monastery is also famous for its *Glosas Silenses*. The writer, Gonzalo de Berceo, was a priest and hermit, and the founder of the Benedictine monastery which bears his name. He lived from 1198 ? to 1265 ?

This work is written in the erudite form of *cuaderna vía* (four-fold way). Its style has been called *mester de clerecía* (scholars' art) as compared with *mester de juglaría* (minstrels' art).

This translation is made from the strophe 1 to 200.



## シロスの聖ドミンゴ（ドミニコ）の生涯 I

ゴンサロ・デ・ベルセオ作 太田強正訳

聖ドミンゴはドミニコ会の創設者でありアルビジョア十字軍派兵の前に教皇庁の特使となって南仏アルビの異端説得に当たった人物である。

作者ゴンサロ・デ・ベルセオは西ゴート支配下に現在の Rioja 自治州 Logroño 県の Berceo 村に 1200 年の数年前に生まれ「教養派文学」(Mester de clerecía) の詩人として多くの作品を残した。これは中世スペインの主に聖職者による文学の流派で、読み書きのできない吟遊詩人 (juglares) による mester de juglaría と対をなすものである。

この作品の出所は San Millán 修道院の修道士 Grimaldo によってラテン語で書かれた散文 Vita Sancti Dominici である。

この舞台となった修道院は San Millán (474-574)、ラテン語で Sanctus Aemilianus によって建てられたもので、ここで 10 世紀中葉にスペイン語の最初期の記録である Glosas Emilianenses (サン・ミリャン註解) が編まれた。彼は自分の建てたベネディクト会の修道院の司祭であり隠者でもあった。

今回は第 1 連から 200 連までを掲載する。訳は言葉が違うので韻を踏ませることはできなかったが各行ごとに付けた。そのため日本語として通るように原文にない接続詞などを補われなければならない箇所があった。

本稿は BIBLIOTECA CASTRO の OBRAS COMPLETAS GONZALO DE BERCEO によるが英訳も参考にした。

ここに栄えある証聖者<sup>1)</sup> シロスの聖ドミンゴ（ドミニコ）の生涯が始まります

- 1     すべてを造った父の名において  
      また栄えある聖母から生まれたイエス・キリスト様の名において  
      また彼らと同等の精霊の名において  
      聖なる証聖者について書きたいと思います
  
- 2     分かりやすいカステイリャ語で詩を書きたいと思います  
      それは人々が隣人と普通話す言葉です  
      というのはラテン語で書くほど私は学識がないからです  
      その詩は一杯の良いぶどう酒の価値が十分あると思います
  
- 3     私は初めからあなたたちにこのことを知ってほしく  
      この物語をあなたたちに始めたいと思います  
      それは聖ドミンゴのまったく真実の話です  
      彼はシロスの聖ドミニコと言われ国境<sup>2)</sup>を守っています
  
- 4     私たちが最初に挙げた神の名において  
      彼に栄えあらんことを、私は彼に帰依しましょう  
      苦難の褒美を彼に期待します  
      彼はわずかな奉仕に対してふんだんな褒美を与えます
  
- 5     書によると、聖ドミニコは  
      カニャス<sup>3)</sup>の生まれで、卑しからぬ出です  
      彼はまったく正しい方法で忠実な人物に育てられました

卑しさとはまったく無縁に正当に

- 6 創造主の友である良い両親で  
教父たちの例に倣っていました  
敵を作ることを避ける術をよく知っていて  
彼らの心に良き模範となっていました
- 7 彼の高潔な父はファンという名で  
マンソス<sup>4)</sup>の家系で、傑出した人物でした  
正義を愛し、完璧な理性の持ち主で  
金銭を得るためにウソをつくことはなかったでしょう
- 8 母の名を挙げることはできなでしょう  
書かれていなかったので、言い当てることはできないでしょう  
しかし神と聖母が彼女の魂を守ってくださるように  
話を続け私たちの道を行きましょう
- 9 根が良かったので良い芽を生みました  
風にそよぐのは軽い葦<sup>5)</sup>ではありませんでした  
というのは彼は早くから思慮深く、善意の子供だったからです  
そして彼は馬鹿げた話を聞くのを好まなかったでしょう
- 10 両親に心から仕えていて  
彼らに対してまったく謙遜でした  
子供でしたがまったく悪意がなかったので  
隣人は皆驚嘆していました

- 11 笑いにも戯れにもあまり関心がありませんでした  
そういうことをする人たちをあまり喜びませんでした  
幼いにも関わらず非常に節度があり  
大人にも子供にも非常に愛されていました
- 12 世間に対してはしっかり閉じた目を向けていました  
愚行を見ないために目をよく訓練していました  
唇はしっかり閉じていました  
馬鹿げたことを言ったり下品な言葉を使ったりしないように
- 13 両親が日々彼に与えていたパンを  
全部口に入れようとはしないで  
知り合った子供達と分け合っていました  
彼は特有の習慣を持った完璧な少年でした
- 14 私はある事を信じていて、それが真実である事をよく知っています  
神が彼を導いていたのだということを  
なぜなら神の善良さがそのような事をさせているからです  
神の善良さは物言わぬ獣にも言葉を与えます<sup>6)</sup>
- 15 その力は彼の僕<sup>しもべ</sup>にも働いていました  
そのお恵みによって彼は非常に賢くなりました  
そのような日々<sup>に</sup>に抛らなば彼は卓越してはいないでしょう  
神に愛される者は常に非常に博学です
- 16 良識ある道理を聞けば、それをしっかり身につけることができま

した

常にそれを思い出し、失おうとはしませんでした  
 食べたい時には食物を祝福していました  
 どんな飲み物にもその様にしていました

- 17 彼は何度もパテル・ノステル<sup>7)</sup>を唱えていました  
 そしてすべての間隔を置いてクレド・イン・デウム<sup>8)</sup>をも  
 習慣となっていた他の祈りと共に  
 これらの知らせは悪魔にとって苦いものでした
- 18 その聖なる子は両親と共に暮らしていました  
 父と母は彼を深く愛していました  
 他のどんな事にも彼は心配していませんでした  
 彼は一心に彼らに寄り添っていました
- 19 彼が物心つく少年になると  
 父は羊の番をしに行くように命じました  
 息子は、罪を犯したくないので、従いました  
 彼はその群れと共に出かけました、その番をしようと思って
- 20 彼は良き牧者として群れの番をしていました  
 どんな大人もかなわないほどに  
 彼は群れが他人の仕事<sup>9)</sup>に入ることを好みませんでした  
 羊たちは彼と一緒にとても喜んでいました
- 21 彼は羊たちに良い牧草を与え、害から守っていました

父から叱られるのを恐れていたからです  
彼は金持ちも貧乏人も騙そうとしませんでした  
一年中熱で横たわっていた方がいいと思っていたからです

22 朝になるとすぐに羊たちをちゃんと連れ出していました  
目をしっかり開いて羊たちを見張っていました  
そのそばを慎重にしっかりと歩いていました  
照っても雨でも屋根のあるところには逃げませんでした

23 彼は夕刻に羊たちと住まいに帰っていました  
杖を手に毛羽立ったマントを着て  
彼をすぐに迎えてくれる人たち<sup>10)</sup>には  
跪いて手に接吻していました

24 いかなる時も眠らず  
底なしの深淵をお作りになった牧者<sup>11)</sup>は  
群れをあらゆる害から守っていました  
狼も泥棒もそのことには害は与えませんでした

25 その羊飼いが羊たちに施したしっかりした世話と  
神が羊たちに与えた聖なる恵みで  
群れは成長し、日々向上していき  
幾人かに嫉妬されたほどでした

26 最初の殉教者アベル<sup>12)</sup>は最初の羊飼いでした  
彼はいけにえとして一番良い子羊を神に捧げました

それで神は彼を天国に加えたのでした  
私たちはシロスのもう一人をも同等の仲間としましょう

- 27 聖なる族長たちは皆羊飼いで  
古い立法の守り手でした  
私たちが読んで知っているように  
聖ミリヤン<sup>13)</sup> や他の証聖者たちは羊飼いでした
- 28 私たちは羊飼いたちについての多くの良い話を読んでいます  
それらは賢明で非常に聖なる男たちについてのものです  
私たちは多くの書で見つけました  
この職業が良い結果をもたらすことを
- 29 それは価値ある職業です、軽蔑には値しません  
全く卑しいものではなく、大きな意味を持つものです  
非常に高貴な王ダビデは勇敢な戦士でした  
彼は何の疑いもなく最初は羊飼いでした<sup>14)</sup>
- 30 我々の主キリスト様は非常に力あるお方ですが  
自分は牧者、真に良き牧者であると言いました<sup>15)</sup>  
司教や修道院長や権威ある人々は皆  
キリスト教社会で牧者と呼ばれています
- 31 聖ドミンゴは最初は羊飼いであり  
後に魂の父であり導き手となりました  
彼は初め良く、最後は更に良くなりました

天の王が私たちにその愛をくださるように

- 32 彼は四年間群れと過ごしました  
多くは彼に与えられたもので育ちました  
彼の父は自分は恵まれた男だと思っていました  
神が彼にこのような良い息子を貸し与えてくれたので
- 33 先に進みましょう、ここに留まるのはよみましょう  
題材は膨大なので、あまり変えないようにしましょう  
なぜなら彼の善良さついて多くを費やすにしても  
千分の一までは述べることはできないでしょうから
- 34 良い習慣を持った少年の聖なる羊飼いは  
カニヤスの地を群れと共に歩き回り  
司祭になり偉業を知りたいと思いました  
もっと純粋な仲間と共に誠実に生きるために
- 35 両親がそのことを知った時、彼らは喜びました  
両親は彼の衣を換え、他のもっと良いものを彼に与えました  
彼らはできる限り一番良い師を彼に探してやり  
教会に連れて行き、彼を神に捧げました
- 36 両親は彼に侍者用の読み書きの本を与えました  
彼は地面に座り頭巾を取り  
右手に尖筆をにぎり  
わずかな時間で教会の規則まで覚えました

- 37 その子は朝早く学校へ行っていました  
父も姉妹もそうするよう言う必要はありませんでした  
彼は日中長い昼寝はしませんでした  
最初の週何かを学びました
- 38 わずかな時間でその子は詩篇を学びました  
賛歌や雅歌をそこでしっかり暗唱しました  
福音書や書簡もすぐに覚えました  
もっと長いものには時間がかかりました
- 39 その子は怠けずよく読み歌っていました  
しかし内には非常な鋭さをもっていました  
というのはそうすることが自分の利益になることを知っていたからです  
そして表面のために本質を見失うことはありませんでした
- 40 そに子は祝福に満ちて、成長し  
思春期を経て、聖なる人となりました  
神は彼のために多くの事を為し、彼の祈りを聞きました  
心の光が外に出ていました
- 41 彼は自分の身に重大な決意を課していました  
断食と徹夜と他の禁欲を  
過ちとすべての罪を避けていました  
定められた規則を決して破ることはなかったでしょう

- 42 その地の司教がこの良きキリスト教徒の噂を聞き  
彼が自分の教区に属していることを嬉しく思いました  
彼に叙階を命じ、司教自身が彼に接手し  
彼はすぐに司祭になりました
- 43 その新人司祭はミサを挙げ  
そのすべての祭式において誠実に務めました  
自分の教会を守り、神に仕えました  
そのことにおいて怠けたり悪習を見せたりしませんでした
- 44 四つの品級<sup>16)</sup>を踏んだ若者は銀のようでした  
聖書の書簡を朗読する聖職者になった時、金になりました  
金は福音書を読む聖職者になった時、真珠になりました  
司祭に登った時には金星のようでした
- 45 聖なる教会はすべて彼と共に賛美されました  
そして全地が彼によって照らされました  
カニヤスは永遠に富んで幸せだったでしょう  
もし彼が教区を動かなかったなら
- 46 前述の神父は民々を教化しました  
人々を集め、罪から遠ざけました  
病人を訪問する事を止めませんでした  
施しができるときは、喜んでしました
- 47 冬も夏も善良であり続け

求められれば健全な助言を与えていました  
 パンがある間は手を休めませんでした  
 彼が良きキリスト教徒であったと理解できます

- 48 我々が言うことすべてよりも彼はずっと善良でした  
 そのように河岸一帯<sup>17)</sup>で思われていました  
 彼は悪魔を阻止することをよく知っていました  
 悪魔はどのようにしても彼を欺くことができませんでした

- 49 その祝福された司祭は叙階してから  
 育った場所に一年半いました  
 彼はすべての人から好かれ愛されていました  
 しかしある事に困っていました

- 50 それは世俗の事だとその良き男は思いました  
 すべての事が悪くなって行くのを知りました  
 虚偽と貪欲が仲間になり  
 他の多くの悪がそれらに近づきました

- 51 彼は言いました、《私はなんと不幸なんだろう！もし私が住む場  
 所を変えなければ  
 私の望まないことに対処することになるでしょう  
 火のそばにある亜麻布は守りずらいものです  
 そこから大きな危険がよく起こります

- 52 もし私が他人に対して罪を犯したら、神に咎められるでしょう

もし他人が私に罪を犯しても、私は咎められるのではないかと恐  
れます

私はもっと人里離れたと所を探すのが良いと思います  
人里に住むよりもその方が私には良いでしょう

- 53 神に当然仕えることを望んだ者たちは  
すべての悪徳から身を守ることができる愛によって  
私が望んで止まない生活を送りました  
もし“我乾く”<sup>18)</sup>と言われた主が私を守ることをお望みであれば

- 54 最初の頃私たちの祖先は  
聖なる教会の創立者だったのですが  
受難の生活を望みました  
渇きや飢えや寒さや酷暑を耐え忍びました

- 55 洗者聖ヨハネは幼少期が終わると  
ぶどう酒、林檎酒、肉そして魚を拒否し  
砂漠に逃避し、そこで非常な名声を得ました  
誰も、身分の高い者も低い者も語ることのできないような

- 56 良き司祭であるアントニオ<sup>19)</sup>とその仲間パウロは<sup>20)</sup>  
彼は人が言うように最初の隠者でしたが  
彼らは荒れ地、見知らぬ砂漠で生活しました  
満足なパンも食わず、満足な衣服も身につけないで

- 57 大いなる罪人<sup>つみびと</sup>エジプト人マリ<sup>21)</sup>は

非常に恐ろしい場所である荒地に長く住み  
 辛い生活に耐えて罪から救われました  
 そのような生活を送る人は恵まれているのです

- 58 私たちの隣人で価値ある証聖者で  
 貧者の保護者である完璧な聖ミリヤンは  
 荒地を歩き回りそこに道を開き  
 そこを歩いて天に昇りました、そこには判事<sup>22)</sup> は入れません
- 59 彼の良き師は聖フェリセスと呼ばれており  
 ビリィビオ<sup>23)</sup> の洞窟に葬られていました  
 彼は真の隠者で完璧な善でした  
 師は善人で良き弟子を育てました
- 60 このような人々は疑いもなく賢明な人たちで  
 魂の救済のため人里を離れ  
 悲惨で哀れな荒地で生活しました  
 それ故徳を積み、崇められています
- 61 そのような生活を送った神父たちは多くいました  
 〈教父たちの生涯〉<sup>24)</sup> の中に彼らについての部分があります  
 彼らは世俗のすべての栄光を嫌っていました  
 天において完全な喜びを得るために
- 62 私たちのために受肉した世界の救世主は  
 洗礼を受けた後、断食しようとした時

私たちに手本を示すために砂漠に入りました  
そこに悪魔が現れましたが、彼はひどく後悔しました<sup>25)</sup>

- 63 祝福された仲間であるエジプトの修道士たちは  
肉体を苦しめるために隠者になります  
彼らは心の中に非常にしっかりした意思を持っています  
こういった人たちについて多くの書が書かれました
- 64 哀れな罪人である私は人里で何をしているのだろう  
ちゃんと食べ、ちゃんと飲み、ちゃんと着てそしてちゃんと横になる  
神はご存じです、そのように生きることにわたしは満足していません  
というのはこのような生活は汚いへつらいをもたらすからです)
- 65 皆が信頼していた価値ある司祭は  
人々がとても彼を愛していたカニヤスト  
彼をとっても愛していた両親や友達を捨て  
人の住んでいない荒地地に退きました
- 66 彼が自分が人里離れて一人になったのを見た時  
あたかも熱から回復したようによろこび  
彼を導いてくれたキリストに感謝しました  
彼には、お知りおきください、夕食の魚もありませんでした
- 67 新しい隠者は非常な辛苦に身を任せました  
多くの願い事をし、詩篇を唱えて  
長時間かけてすべての聖務をこなし

肉体にわずかな楽しみしか与えませんでした

- 68 辛い生活に耐え、粗末な寝床に身を横たえ  
この良き男は肉体をまっすぐに保ちました  
不倶戴天の敵が彼を待ち伏せていて  
彼のこの苦難を非常に不快に思っていました
- 69 悪天候や冷たい霜  
あるいは激しい、荒れた風  
あるいは濃い霧、あるいは荒れ狂うあられ  
すべての艱難は、彼には何でもないことでした
- 70 夜も昼も激しい艱難にたえました  
あなたたちが空想の中で聞いたように  
しかし良きキリスト教徒でエリア<sup>26)</sup>の後継者である彼には  
すべては何でもないことでした
- 71 彼を知っている人々に大いなる不注意が起きました  
彼の居場所を書きませんでした  
あるいは偶然彼らはそれを知らなかったのだと思います  
常に変っていたので彼らはそれを言わなかったのです
- 72 どこに彼がいても、谷間であろうと人里であろうと  
彼の価値によってそこは最も崇高な場所となりました  
というのは書にあるように、その善人によって  
そしてその証聖者によってそこは神聖な場所となるのです

- 73 彼は一年半隠遁生活を送りました  
書にそう書いてあります、私は知りませんでしたが  
それを読まなかったら、そう言いたくなかったでしょう  
不確かなことを言うと、大きな罪になったでしょう
- 74 彼のすべての苦難、すべての誘惑  
説教をする司祭たちには、それを言い表すことはできないでしょう  
同じような患難に耐えた人々以外は  
そしてそれをしっかりした心で耐え忍んだ人々以外は
- 75 その良き男は心を込めて祈っていました  
全キリスト教徒を守り  
民々にパンと平和と真理と  
温暖な天候と愛と慈悲を与えてくださるように
- 76 祈っていました病人に健康を  
捕らわれ人に自由を与えるように  
そして異教徒からは力を取るように  
キリスト教徒を抑圧し残酷に扱う力を
- 77 非常に熱心に主に祈っていました  
邪悪な毒を蒔く偽りの異端者たちを  
避け、彼らに道を閉ざすように  
彼らの悪いぶどう酒の澱が信仰を弱めることのないように
- 78 彼は自分自身のためにしばしば祈っていました

神父であり、キリスト教の光であったので  
過ちと死に至る罪から守ってくださるように  
洗礼の時した誓いを破らないために

- 79 彼は死者たちのために祈ることを忘れませんでした  
信者で告解をして死んだ人々のために  
そして他の指定した自分の友たちのために  
その良き男は主の祈りを二回ずつ唱えていました
- 80 聖ドミンゴは辛苦に慣れて  
自分の肉体に休息も安らぎも与えず  
このような生活を一年半送りました  
この間楽しみをほとんど持たなかったことをお知りおきください
- 81 さらに大きい苦難の中で生きるため  
そして許しがなければ何もしないため  
修道士になり従順に生きよう  
そして自分の力を超えてしっかりと規制されようと考えました
- 82 誰も軽くこれを取ることのないように  
そして誰も彼の聖性を減じることはなかったのです  
なぜなら彼自身の内に常に完全な慈愛があったのですから  
彼は他者の力のうちに自分の意思を置いたのです
- 83 高潔な聖証者は荒れ地を後にして  
よく整えられた場所であるサン・ミリヤン<sup>27)</sup>にやって来ました

そこで修道士になることを願い出て、喜んで許されました  
この状態で最後を迎えても良かったのでした

- 84 修道会は新しい騎士を良く迎え入れ  
彼は修道院で非常に良い修道士になり  
温和で、我慢強く、気持ちの良い仲間でした  
行いは控えめで、言うことは真実でした
- 85 神と聖マリアに感謝  
その修道院には彼ほど良い修道士はいたことはありませんでした  
規則の命じることをいつも実行して  
文句を言うことなく良く修道会を護っていました
- 86 忠実な修道士である聖ドミンゴは  
良き司祭のように修道院にいました  
目を閉じて、頭巾を外して  
苦難に遭っている人のように黄色い顔色で
- 87 父なる修道院長の命じることは何でも  
あるいは副院長、あるいは修道会の上位者の  
命じることは何でも  
彼は喜んですぐに従っていました  
良き隣人たちは彼を良きキリスト教とだと思っていました
- 88 修道院においても聖歌隊においてもあるいは他の場所においても  
禁じられているところでは彼は話そうとしませんでした<sup>28)</sup>

彼を実際に探したいと思う人は誰でも  
教会に、祭壇の近くに行きました

- 89 修道士たちが肉体労働<sup>29)</sup>に行くように命じられても  
その良き男はそれに良く賛同することができました  
どんなふざけも彼を笑わせることができなかつたでしょう  
またどんな軽薄なことも彼の口から言わせることができなかつた  
でしょう
- 90 その誠実な修道士は非常に善良で  
従順でいつも従う用意ができていて  
行いがすべて非常に良かったので  
修道士たちの何人かにはこれが負担でした
- 91 他の修道士たちが耐えようとする一方  
彼は決して教会から出よとしませませんでした  
夜も昼もそこで過ごそうとしました  
彼の魂を救うため、そして創造主に仕えるために
- 92 彼のことを皆が鏡のように見ていました  
なぜなら彼の良き皮膚の下に大きな宝が横たわっていたので  
聖なる会議は彼を父と見ていました  
価値のない悪党以外は
- 93 あなたたちに前に言いました、もしよく覚えていてくれるなら  
彼の善良さを語ることは長い話になるだろうと

前へ進みましょう、もし私たちに忠告するなら  
なぜならまだ大分ありますから、あなたたちが考えるよりも

- 94 院長は修道院の者たちと話しました  
彼らはあることを考え、決めました  
この男を試そうと、彼の意思がいかほどのものなのか  
全く見かけ通りのものなのか
- 95 彼らは言いました：《彼を試してみよう、そうすれば私たちがど  
うなるのか分るでしょう  
彼を理解すれば、私たちはより確信できるでしょう  
なぜなら書に書いてあるし、私たちはよく書を読みます  
私たちは言葉を聞くが心は分らないと
- 96 彼にある農場に行くように命じましょう  
貧しい小屋と同じようにみすばらしい農場に  
もしそうするのを嫌がったり怒ったりすれば  
私たちは彼がイカサマだと分かるでしょう》
- 97 それはカニヤスの近くにありました、今日でもそうです  
名前が聖マリアと言う家でした  
その家は全く何もない非常に貧しい家でした  
彼はそこを引き受けるように送られました
- 98 その良き男は迷わず納得し  
すぐに頭を垂れ、祝福を受けました

聖なる体<sup>30)</sup>に短い祈りを捧げました  
彼はあまり言葉を発しませんが非常に思慮深いものでした

- 99 《主よ》、と彼は言いました、《あなたは完璧な力をお持ちです  
そしてあなたがよく愛する人々を倒れさせません  
主よ、私をお護りください、それがあなたの喜びになりますように  
そして私の苦難が無駄にならないように
- 100 常に私は望んで来ましたが、そしてまだ望んでいます  
世間とそのすべての喧騒から身を遠ざけることを  
あなたの掟のもとで生き、あなたに仕えて死ぬことを  
主よあなたに慈悲を求めます、そしてあなたが私に好意を示すこ  
とを
- 101 あなたの恩寵を得るため私は服従しました  
嵐の中で生き、悔悛のうちに死ぬために  
主よ、あなたを恐れるために過ちを犯したくはありません  
そうでないならこの生き方から出ることはないでしょう
- 102 主よ私はしなければならぬと思うことはすべてするつもりです  
もしそうでなければ私から悪魔に食べ物を与えるでしょう  
突き棒に対して私はあえて足蹴にしません  
あなたは私がこの杯を無理やり飲んでいてることをご存知です
- 103 私は聖母に何か奉仕をしたいと思います  
それは正しいことだと信じ理解しています

なぜなら彼女は世界の主人の母であり妻だったのですから  
彼女の住んでいる家へ行きたいと思います》

- 104 彼は嫌々ながら修道院を出ました  
愛するすべての修道士に別れを告げました  
彼をととても愛していた修道士たちは悲しんでいました  
彼に企を巡らした修道士たちはすでに後悔していました
- 105 その祝福された男は聖マリアの家へ行きました  
そこにはパンも他のどんな食べ物も見つかりませんでした  
それで執拗な巡礼者のように施しを求めました  
皆が彼に何かを与えました、ある者は半分を、またある者は切れ  
はじを
- 106 神と聖母と確かな信仰があったので  
彼のもとへ日々の良い供物が届いていました  
夜は貧しく、朝は豊かでした  
彼はその贈り物をしっかりキリスト教徒たちと分けていました
- 107 良識を持ったそのお男は掟を全うするため  
自らの手で生きることで苦難を望み  
物乞いをやめ耕し始めました  
彼にとってそれに耐えることは大変なことでした
- 108 家々を改良し、土地を広げ  
教会を飾りました、これはしっかり信じてください

本や衣類や多くの良き物で  
この間多くの苦難に耐えました

- 109 彼の名誉のためにこれを書いている私ゴンサロは  
創造主の顔を見るようにそれを見ました  
十分な細工のない小さな台所でした  
あの良き証聖者がそれを作ったと言う話です
- 110 数年でその家は備え付けられました  
仕事や家畜に十分に用意されたのです  
すでに貧しい人たちがそこを住まいにしていました  
彼によって、神に感謝<sup>31)</sup>、教会は聖なるものになりました
- 111 彼は父親を改宗させ、修道士にさせ  
彼の手の中で看取りました  
息子は彼を同じ墓に葬りました  
そこに場所がはっきりしないのは私には残念です
- 112 彼は修道会に入ろうとしなかった母を  
家に迎えようとしませんでした  
その老女はその頑迷さのうちに死ぬことになりました  
神がもし聞いて下さるなら彼女の魂を受け取ってくださいますよ  
うに
- 113 その良き男を住まいで休ませておきましょう  
彼をその仲間と共に貧者を援助させておきましょう

私たちはサン・ミリャン修道院に戻りましょう  
なぜならまだすべてが完結していませんから

- 114 修道院長は賢人のように  
これを心に留め、自分は間違っていると思いました  
このような人間がこんなに離れているのは  
彼がいれば修道院がもっと整然となるでしょう
- 115 彼は修道院で会合を開きこの問題を扱いました  
集まった人々はその教会が立派でも美しくもないことがわかりま  
した  
こんな完璧なキリスト教徒でこんな価値ある生活をしている人に  
ひどい教会をあてがうなんて
- 116 皆は言いました：《彼に修道院に来てほしい  
私たちは皆そこを嬉しく思い、喜んでいます  
彼の中に私たちは善良さが足りているのを知っています  
彼のことで一度も不愉快なことはありませんでした
- 117 すぐに彼の仲間たちは彼に伝言を送りました  
伝令たちは多くを請う必要はありませんでした  
彼はすぐに彼らの最初の言葉に従い  
門番たちは喜んで扉を開けました
- 118 彼は聖体に近づき祈りを捧げました  
それから聖歌隊のところに登り祝福を受けました

皆が彼に非常に大きな慰めを得ました  
 このような完徳の仲間として

- 119 大きな忍耐力を持ったその完璧なキリスト教徒は  
 服従をもって非常に大きな愛を獲得したので  
 どんな唆しにあっても、どんな苦難にあっても  
 まったく過ちを犯そうとはしませんでした
- 120 天の王は彼にこのような大きな恩寵を与えたので  
 彼はもう死すべき被造物には見えず  
 天使か靈的な存在のようでした  
 肉の形で自分たちと共に生きていたところの
- 121 規則の代わりに皆彼の言うことを守りました  
 修道院においても聖歌隊においても彼の方を向いていました  
 彼の言う言葉は蜜のようでした  
 グレゴリオの口から出る言葉のように<sup>32)</sup>
- 122 彼は非常に善良だったので、他の皆よりも  
 修道院長は彼に副院長の地位を与えました  
 できるなら喜んで辞退して欲しかったのですが  
 彼は言いました：《そうしたくはありません》、そうすることは罪  
 だと思っていたのです
- 123 彼は副院長になりました、書がそう言っています  
 良き牧者として、雇い人としてではなく<sup>33)</sup>

魂の敵である呪われた狼を  
聖堂の外に追い出していました

- 124 大混乱していた多くのことが  
この副院長によって良い状態に戻されました  
修道院長は時々外出すると  
帰りに悪化した物事を見ることはありませんでした
- 125 このような頭が導く修道院は祝福されています  
このような牧者を持つ群は祝福されています  
このような城主の城は幸いです  
このような善良な門番のいる門は幸せです
- 126 ある事が私の心に重くのしかかっています  
私たちは少し話を逸らさなければなりません  
この価値ある男について生まれた論争から  
なぜ彼が山脈とガトンの泉を超えたのかという<sup>34)</sup>
- 127 ナヘラ<sup>35)</sup>の君主であるドン・ガルシアは  
大王と言われるサンチョ王<sup>36)</sup>の息子でした  
確固たる騎士で、高貴な戦士でした  
しかしサン・ミリャンに対してはもっと良くできたでしょう
- 128 彼は策に長けていて美しい体の持つ主でした  
非常に弁がたち、戦いにおいては幸運でした  
彼は多くのモーロ人の女を未亡人にしました

しかし貪欲であるという欠点を持っていました

- 129 彼は他の多くの事の他に騎士団を作り  
司教座のあるカラオラを征服しました  
聖母のために教会を獲得し  
その日神に大きな奉仕をしました
- 130 レオンを支配していた王ドン・フェルナンドは  
彼はブルゴス、カスティリヤ、カストロとカリオン<sup>37)</sup>も支配し  
ていましたが  
同じ両親をもつ彼の兄弟でした<sup>38)</sup>  
オカ山<sup>39)</sup>が彼らの領地の境でした
- 131 彼は悪魔に動かされてサン・ミリャンにやって来ました  
彼の心配が何であれ、彼は不機嫌でした  
宿泊した時、修道院に尋ねました  
人々は彼が満足していないのが良く分かりました
- 132 《修道院長》、と王が言いました、《あなたたちに私の話を聞いて  
もらいたい、  
ここに住んでいるあなたたちとあなたたちの修道院に  
なぜ私が来たのかあなたたちに知ってもらいたい  
私はあなたたちが避けることを許すことができない、私を助けて  
ほしい
- 133 あなたたちに私の仕事を話すのは長くかかるだろう

長い話しは常に退屈なものだから  
長引かせないで、縮めて話したい  
あなたたちの宝から私に少し分けてもらいたい

- 134 私の先祖はそれを与えました、本当の事です  
それと他のすべてを、早い時期に  
それらは今私の利益になっています、正しいことです  
私たちはなんとか返そうとさえ思っています
- 135 修道院長と修道士たちはひどく恐れを抱きました  
誰も彼に答えませんでした、それほど当惑していたのです  
副院長は彼らが混乱しているのだと思い  
彼に答えて二三厳しい言葉を口にしました
- 136 《王様》、と彼は言いました《聞き入れてくださいますようお願い  
します  
私があなたに申し上げたい事があなたに苦痛にならないように  
私は皆の中で一番不完全な脳の持ち主ですが  
正しくない事を進んで言うつもりはありません
- 137 あなたの先祖はこの聖なる修道院を建てました  
あなたはそこの主人であり正統な主です  
もし私たちがこの事を否定すれば私たちは大変な悪を犯す事にな  
るでしょう  
私たちはその事で大罪を犯す事になるでしょう

- 138 それを建てた人たちはそれを修道会に寄進しました  
 彼らは遺産をつぎ込み、お宝を提供しました  
 神に仕えるために、そのために提供しました  
 そこにつぎ込んでからは取りに戻ってきませんでした
- 139 一度神に提供されたものは  
 決して他の用途に使われてはなりません  
 それを変えた者は気が触れるでしょう  
 その者は裁きの日に非難されるでしょう
- 140 もしこのような事があなたに起これば、あなたはまともではありません  
 もし他の人が勧めたとすれば、あなたは間違った助言をされたこと  
 になります  
 王様、あなたの魂を守ってください、そのような罪を犯さないで  
 ください  
 硬く禁じられた罪は冒瀆になるでしょうから
- 141 ご主人様、あなたによく申し上げておきます、そのような事から  
 何も得ないでください  
 あなたの税収で、あなたの正しい収入で生活してください  
 長続きしない富のために、あなたの魂を売らないでください  
 注意してください、あなたの足が石に打ち当たることのないよう  
 に》<sup>40)</sup>
- 142 《修道士よ》、と王は言いました、《あなたたちは無礼だ

王に向かって話すのに誰がそんなに大胆にしたのか  
 どうも沈黙に慣れていないようだ  
 あなたたちはそういう事に本当に欠けているのだらうと思う

- 143 あなたたちは分別がない、狂人のように話す  
 あまり喋るとあなたたちを盲人にしますよ  
 しかしあなたたちに忠告したい黙っていなさいと  
 許可なく話すとともに混乱します》
- 144 修道副院長は断固としていました、その事について何も言いませんでした  
 《王様》、と彼は言いました、《この事においてははっきりした真実を申し上げます  
 勅令によっても法律によってもそれは偽る事は出来ないでしょう  
 あなたは報酬を私にひどい金額で約束します
- 145 王様、私はあなたにひどく扱われています、それに値しないのに私は正しい事を言っているのにあなたに不当に脅されています  
 あなたはそのような事で私に不満を抱くべきではありません  
 王様、あなたがそのような事をしないように神様があなたをお護りくださいますように》
- 146 《修道士よ》、と王は言いました、《あなたはとても弁がたつ法律家のような、隠遁した修道士ではなく  
 私はあなたにすっかりしてやられたとは思わないだらう  
 あなたの舌を切り取ってしまうまでは<sup>41)</sup>》

- 147 王が語ったこれら全ての脅しを  
その祝福された男はは全く意に介しませんでした  
王が言えは言うほど、彼は力づきました  
王が罪を犯していたので、彼はとても残念でした
- 148 《王様》、と彼は言いました、《あなたは悪い行いをしています、  
私をこんなに侮辱して  
あなたは激しい怒りで汚い言葉を発しています  
罪の重い荷物を自分の背中に背負わせています  
他の人の手足で肉のスライスを作ろうとして
- 149 あなたが大きな怒りで言っている過ちと  
あなたが日々犯している他の罪を  
マリア様の息子であるキリストが許してくださらんことを  
しかし私があなたに言った事は全て変えませんから》
- 150 王が話して言いました：《勇敢な修道士さん、  
あなたはそびえ立つ城に住んでいる人と話しているのですよ  
しかし私があなたをこの神聖な場所の外で捕らえることができれば  
あなたは吊されると覚悟しなさい》
- 151 創造主の友である聖ドミンゴが言いました  
《王様、どうか私の申し上げのことを聞いてください  
不倶戴天の敵があなたを鎖に繋いでいます  
それ故私と争うようにあなたを焚きつけているのです

- 152 あなたの怒りと言葉があなたに大きな害をもたらしています  
悪魔が大きな奸計を仕組んでいます  
王様、私はあなたの侮辱にとても混乱しています  
ここにいる者は皆苦しんでいます
- 153 あなたは体を殺すことも肉を虐げることもできます  
しかし王様、あなたは魂には何の力もありません  
そのことは信じるべき福音も言っています  
魂を裁くお方を恐れるべきです
- 154 王様、あなたのような君主にご忠告いたします  
聖なる証聖者から何も取ろうとしてはいけません  
あなたが差し出した物を奪ってはいけません  
もしそうでなければあなたは創造主のお顔を見ることはできません
- 155 しかしあなたがお宝を持ち帰りたいなら  
私たちがあなたにそれを差し出すことはできません、あなたが取  
って行ってください  
もしその場所の主人がそれを護らないなら、  
王様、私たちはあなたと争うことはできないでしょう》
- 156 王は怒りました、ひどく理屈もなく  
マントのボタをはめ<sup>42)</sup>、修道院を去りました  
彼はひどく逆らわれたと思ったに違いありません  
彼は副院長だけに怒りと悪意を持っただけでした

- 157 その高潔な証聖者は修道院に留まりました  
全ての雑音が変わることはありませんでした  
彼は任された聖務を守っていました  
殉教者にされたのならとても満足でしょう
- 158 彼は神聖なる体の所に行き、サン・ミリャンに言いました  
《聞いてください、あなたのパンを食べている多くの者たちの父よ  
あの方が私に対してあんなに卑しい王であることはご承知です  
犬に与えるよりも大きな名誉を私にくれません
- 159 ご主人様、あなたは地の父であり覆いである方です  
お願いしますこんなに大きい苦しみがあなたの心を痛めますように  
なぜならあなたのために私はそれに耐えています、主人であり聖  
なる父よ  
しかし彼の脅しはあまり怖くありません
- 160 上着を貧者と分けた証聖者である私を  
見捨てないでください、あなたは私がどこへ行こうと私を導いて  
ください  
あなたの修道院が私のために悪に落ちことのないように  
そしてこの猛きライオン<sup>43)</sup>が私のために修道院を苦しめるこ  
とのないように
- 161 君主が私に怒っていることは明らかです  
そして何か悪い穴の入り口を探すでしょう  
罪を恐れなくて修道院に悪さをしかけるでしょう

なぜなら彼に悪意があることはよく分かっていますから》

- 162 彼が思ったとおりすべてが起きました  
修道院には確かな占い師がいたようです  
その彼は他の水車のパンを食べるなければなりませんでした  
そして彼はサン・ミリャン修道院の近くに長くいなかったでしょう
- 163 彼は静かになり隠れることができました  
自分の意思を誰にも明かそうとせず  
このことがどういう結果になるか待ちました  
しかし創造主に仕えることは止めませんでした
- 164 悪魔はこのことを無駄にしませんでした  
彼は急ごしらえの悪智慧を思いつきました  
王に腐った道を示したのです  
彼が抱いた侮辱に復讐するために
- 165 ガルシア王は修道院長と話をしました  
《院長》、と王は言いました、《私はあなたの修道院でひどい扱い  
を受けています  
全く思っていないませんでした  
私がこの修道院で拒まれるとは
- 166 はっきり言うておく、あなたに知ってほしい  
おしゃべりな副院長をあなたが裁かないなら  
私は財宝を持ち去るでしょう、領地さえも

そしてここにいるあなたたち全てが門から出て行くように》

- 167 修道院長は決然としていませんでした、すぐに変まりました  
彼は私たちが思う通り嫉妬に駆られていたのです  
彼は喜んでそうすると王に言いました  
副院長は修道院にも、その職責にも留まることはないだろうと
- 168 聖ドミンゴが前に考えたことを  
悪魔がすでに糸を紡いでいたのです  
副院長は職を解かれ  
非常に不条理にも修道院を追放されました
- 169 嫌々そうするのだの言い訳がなされました  
なぜなら王が副院長に不満なのを分かっていたので  
そしてこのようにして王をなだめたのでしょう  
そして王は抱いていた不満を忘れたのでしょう
- 170 副院長にはどこに住むにしても貧しい場所が与えられました  
そこではほんの少しの助けしか得られなかったでしょう  
彼はこの不幸をすべてくだらない事だと思って  
鏡の中に見るように見ていました
- 171 書によると三箇所<sup>44)</sup>でした  
しかしどこだったのかどんなものだったのか我々は知りません  
みんなみすばらしい所だったと理解できます  
我々が信じるどころでは金持ちが用意したものではなかったので

しょう

- 172 神は彼に豊かな恵みを与えました、彼はそれに値したからでした  
皆が彼が必要なものは全て彼に与えていました  
そのままであつたら  
彼は持っているもので生きられたでしょう  
しかし悪い敵がそれを望みませんでした
- 173 しかし王は侮辱を忘れることができませんでした  
口実を見つけるために待ちました  
半年経つ前に彼に大きな税をかけたのです  
このようにして王は彼を処罰しようとしたのです
- 174 聖ドミンゴは言いました：《王様、あなたは何に固執しているの  
ですか  
あなたは日々ますます気が高ぶっているようです  
私はあなたがそれが分からないとしても分かってほしいのです  
どうもあなたは時間を無駄にしているようです
- 175 王様、あなたはよくご存じです、あなたは私に決して何もくれま  
せませんでした  
他人のお金も任されていません  
私はそのようなものを貯めておきたいとは思いませんでした  
もっと私はそれを困っている人々に分けてあげたかったのです
- 176 お願いですから私をそんなに責め立てようとしないでください

私からは何も取り去るものはないとお知りおきください  
望んだとしても差し上げるものはないでしょう  
乾いた棒から汁を誰が取ることができますよう》

- 177 《修道士よ》、と王が言いました、《あなたたちは信じないのか  
我々があなたたちが大きな富を得ていることを知っていると言う  
ことを  
修道院を手に入れたときにです  
皆が私にはっきり言ってますよ、あなたたちが何をしていたか》
- 178 《王様、このことは他の全てよりもわたしを嘆かせます  
あなたはわたしに大罪である盗みを着せています  
私自身決してそのようなことを企てたこともしたこともありません  
証人として私は魂の御父をお連れします》
- 179 《修道士よ》、と王は言いました、あなたたちは悪について多くを  
知っている  
我々皆が知っていることをあなたたちは否定する  
あなたたちが持ち出すそのような偽善は  
結局苦いものだと分かるだろうと私は強く思う》
- 180 《王様》、と修道士は言いました、《もし私の運命がそうであるなら、  
あなたとは安全な生涯を送ることができないというなら  
苦しみを逃れるためにあなたの土地を去りたいと思います  
そしてエストラマデューラ<sup>45)</sup>の方へ住むところを探しに行きま  
しょう》

- 181 副院長は与え、奪いたもう<sup>46)</sup> 御父に身をまかせ  
皆に別れを告げ、土地を去りました  
街道に出て、山脈を横切りました  
ナヘラの地<sup>47)</sup> で彼を大きな不幸が襲いました<sup>48)</sup>
- 182 彼が山から下りて来ると  
冷水を飲み、杖をつきながら  
ドン・フェルナンド王の宮廷に着くと  
王は喜んで彼の一派は増えていると言いました
- 183 《副院長》、と王は言いました。《よくいらした  
あなたを知って心からうれしい  
あなたと知り合って私は満足している》  
王と共に皆が喜び、彼は歓迎されました
- 184 《王様》、と修道士は言いました、《あなたに大いに感謝します  
身に余るこのような大きな名誉を私に与えてくださることを  
しかし私が従う神にかけてお願いします  
私があなたにする頼みを聞いてくださるよう
- 185 私は生まれて過ごしたあなたの王国を去ります  
なぜならあなたの弟とうまくいかないからです  
私に庵をくださるようお願いします  
そこで乙女マリアから生まれたお方に仕えることができるよう  
な》

- 186 私たちはこの良き人を王と共に休ませましょう  
少し題材を変えるのがいいでしょう  
そうしなければ私たちはこの話の主題を思い出せなくなるでしょう  
なぜなら長くなっても、我々はちゃんと戻れるでしょうから
- 187 カラソ<sup>49)</sup>の地に、あなたたちが聞いたことがあるなら  
重要な町で、有名な要塞のあるところですが  
修道院があり素晴らしい場所でしたが  
崩れが激しく捨て去られようとしていました
- 188 黒衣の修道士たちが<sup>50)</sup>そこに住む良い修道院でした  
その聖務に神は満足していました  
しかし風向きが非常に変わり  
彼らは修道院をほとんど維持できなくなりました
- 189 この大きな害悪はまったくの不信の源です  
それは不注意と大きな怠慢によるものでした  
あるいは神がこのような決定を下したのです  
聖ドミンゴに名誉を与えるために
- 190 しかし修道院にはまだ何人かの修道士がいて  
正しい生活を送り、すべて聖人した  
彼らは上着とマントの非常に貧しい人々でした  
食事をしても十分にお腹はいっぱいにはなりませんでした
- 191 彼らの中に一人の完璧なキリスト教徒がいました

書にあるようにリシニアノという名でした  
 彼はこの極端な害悪に苦悩と悩みを抱いていました  
 それは冬も夏も常に悪化していました

- 192 彼は教会の中に入り、祭壇の前に行き  
 跪いて、願い始めました  
 《風も海も恐れる神様  
 この場所にあなたの目を向けてください
- 193 主よ、私たちを見ないでください、罪人ですから  
 私たちは思慮分別もなく、良い供給者ではありません  
 善人たちを、私たちの先任者たちを思い出してください  
 彼らはこの修道院を支えた人々でした
- 194 主よ、どこにいても、私たちに牧者を送ってください  
 この修道院より良い状態にしてくれるような  
 不足は私たちを悪くします、恥はもっと悪くします  
 なぜこういうことが起こるのかあなたはご存じです
- 195 この場所の由来である聖セバスティアン様<sup>51)</sup>  
 神に愛された殉教者よ、私の祈りを聞いてください  
 この修道院からこの苦しみを取り去ってください  
 あなたの家がこんな大きな破滅に落ちないように
- 196 私たちに支えとなる創造主の僕<sup>しもべ</sup>をお与えください  
 あなたはその愛を得るために大いなる殉教に耐えたお方です

私たちが悪く、価値のない人間でも  
あなたの家がこんなひどい不名誉に落ちないように

- 197 非常に豊かで、大きな賞賛の的だった修道院  
そこでは百の百倍以上の助言をしていて  
その大修道院には良き修道士たちが住んでいました  
しかしすぐに蛇の住処になるでしょう
- 198 主よ、お恵みをお願いします、それがあなたに聞き届けられます  
ように  
このような高貴な修道院が破壊されませんように  
何か助けを探してください、分別のある殉教者よ  
これをもって私はこのお願いを止めます》
- 199 この敬虔な祈りは神に聞き届けられました  
完璧な心を持った持った修道士がしたからです  
良き生活を送る君主である王の心を打ったのです  
以前は考えなかったことです
- 200 急に王の心に浮かびました  
その修道院をこの価値ある人に与えようという考えが  
神がその修道院に聖なる祝福を与え  
幸運にも呪いがとけるだろうと

## 注

- 1) 迫害に屈せず信仰を守った信者で殉教者以外の聖人

- 2) この再征服の時代キリスト教徒とモーロ人の居住地の境
- 3) スペイン北部 La Rioja にある町
- 4) 不明
- 5) 新約聖書マタイ伝 11 : 7
- 6) 旧約聖書民数記 22
- 7) ラテン語 Pater noster 主の祈り
- 8) ラテン語 Credo in unum deum 我は信ず唯一の神を (使徒信教)
- 9) 「他人の牧草地」のことが
- 10) 「家族」のことであろう
- 11) 「神」のこと
- 12) 旧約聖書創世記 4 : 4 「最初の殉教者」とは旧約におけるということであろう
- 13) San Millán 修道院の起源となった隠修士 (473~574) ラテン語名 Sanctus Aemilianus
- 14) 旧約聖書サムエル記上 16 : 11-13
- 15) 新約聖書ヨハネ伝 10 : 14
- 16) 守門、読師、悪魔払い、待祭
- 17) カニヤスを流れる Tuerto 川の河岸
- 18) 新約聖書ヨハネ伝 19 : 28 十字架上の言葉でラテン語で正しくは "Situs"
- 19) エジプトに於ける修道院制度の創設者の一人
- 20) キリスト教の最初の隠者で、テーベの聖パウロ
- 21) 娼婦エジプト人聖マリア
- 22) 判事は民衆に憎まれていた
- 23) スペイン北部 La Rioja のエプロ川右岸の地
- 24) ラテン語 Vitae Patrum 六世紀の書
- 25) 新約聖書ルカ伝 4 : 1-13
- 26) 旧約の預言者
- 27) La Rioja のサン・ミリアン修道院
- 28) ベネディクト会では沈黙が重要視された
- 29) この部分ラテン語 ad opera manum (直訳一労働に手を) ベネディクト会では毎日何らかの肉体労働が義務付けられていた
- 30) サン・ミリアンの遺骨か
- 31) Deo gracias スペイン語化されたラテン語、正しくは Deo gratias
- 32) 教皇グレゴリオ 1 世
- 33) 新約聖書ヨハネ伝 10 : 11-13
- 34) 山脈とは La Rioja のサン・ロレンソ山脈 (Sierra de San Lorenzo, ガトンの泉 (Fuend de

- Gatón) とはそこから流れ出る小川
- 35) La Rioja の町
  - 36) アルマンソルを破った
  - 37) Carrion de Altrava のことか
  - 38) サンチョ大王の息子
  - 39) ブルゴスの山
  - 40) 斜体部分ラテン語 *ne ad lapidem pedem tuum ofendas* (正しくは *ne forte offendas ad lapidem pedem tuum*) 新約聖書マタイ伝 4:6
  - 41) 不敬に対する罰則
  - 42) 怒りの印として
  - 43) 君主のことか
  - 44) 誤って San Millan の三人の弟子が没した庵のことを指しているようである
  - 45) Castilla と境を接するモーロ人地区と隣接する辺境で現在のポルトガルとの国境地帯
  - 46) 旧約聖書ヨブ記 1:21
  - 47) スペイン北部 Logroño の町
  - 48) ガルシア王の襲撃を受ける
  - 49) シロスの東にある台地
  - 50) ベネディクト会の修道士は黒い修道服を着ていた
  - 51) シロスの修道院は元々シロスの聖セバステイアンに因んで名付けられた

## 参考図書・辞書

- BIBLIOTECA CASTRO OBRAS COMPLETAS DE GONZALO DE BERCEO  
 The Collected Works de Gonzalo de Berceo ACMRS Arizona 2008  
 Diccionario Medieval Español Martín Alonso Universidad Pontificia de Salamanca 1986  
 Diccionario de Castellano Antiguo Manuel Gutiérrez Tuñón Editorial Anfonópolis 2002  
 Tentative Dictionary of Medieval Spanish Lloyd A.Kasten and Florian J.Cody The Hispanic Seminary of Medieval Studies New York 2001  
 Diccionario de la Lengua Española Real Academia Española Espasa 2001  
 スペイン語大辞典 白水社